

も・み・じ

100

発行：放送大学福島学習センター
機関誌

〒963-8025

郡山市桑野1丁目22-21

TEL 024-921-7471

いわきサテライトスペース

TEL 0246-22-7318

<https://www.ouj.ac.jp>

— もみじの由来 —

福島学習センターの建物は、もみじ館と呼ばれ、郡山女子大学発祥の地である。青葉の頃、紅葉の時期それぞれに美しい色どりが心をなぐさめる。当センター機関誌の名称としてまことにふさわしい。

重要！

お知らせ



◆面接授業や学習センター等の重要な情報については、システムWAKABA及び福島学習センターホームページに掲載いたしますので、必ず週に1度はチェックするようにしてください。

【システムWAKABA】

<https://www.wakaba.ouj.ac.jp/portal/>

【福島学習センターホームページ】

<https://www.sc.ouj.ac.jp/center/fukushima/>

◆年末年始及び月曜日・祝日以外の学習センター閉所日について

12月27日(火)～1月4日(水)・1月10日(火)・1月11日(水)・1月26日(木)・2月12日(日)

あわせて『利用の手引き』の日程表、もしくは福島学習センターホームページのセンタースケジュールもご確認ください。

◆次学期に向けての手続きについて

- ・次学期も学籍が続く方は、2月13日(月)～2月27日(月)【**必着**】の期間内に科目登録申請票(システムWAKABA申請可 2月13日(月)～2月28日(火))を郵送してください。
- ・今学期学籍が切れる方で次学期も学習を継続される方、再試験を受ける方は、2月28日(火)【**第1回**】、3月14日(火)【**第2回**】【**必着**】まで継続入学出願票(システムWAKABA継続入学申請から出願可)または一般の学生募集要項の出願票を郵送してください。

◆機関誌『もみじ』及び『利用の手引き』の配布方法について

配布方法については、福島学習センターホームページ内の「機関誌紹介」及び「各種お手続き」(下記URL)に配布方法が掲載されています。配布希望者の方はホームページ参照の上、お手続きをしてください。

<https://www.sc.ouj.ac.jp/center/fukushima/about/magazine.html><https://www.sc.ouj.ac.jp/center/fukushima/procedure/>



考古学の研究資料収集法

會田 容弘

研究を行うには対象とする資料が必要である。理系・文系を問わず、その資料収集にはその研究分野ならではの苦労がある。朝日新聞科学欄にクジラの研究を行っている女性研究者が死んで流れ着いたクジラを解剖し、骨にするために重機で穴を掘って埋めて、骨格標本を作るという大変な資料収集話が載っていた。考古学者も生物学者に劣らず、研究資料を得るために独自の方法をとる。それが発掘調査である。

発掘をしていると「何故ここから出てくるとわかったのですか。」とか「自分で埋めてたんじゃないですか。」とよく言われる。「埋めてた」というのは考古学の黒歴史を知っているからだろう。清廉潔白な考古学者は「出てくる」とわかっていて掘るわけではないのだ。「出るかもしれない」場所を探して、掘るのである。だから、実際に想定した資料が出てくると嬉しいし、そこから研究を始めることができるのだ。

私は旧石器時代の研究を行っている。まずは研究対象の旧石器が地中深くで待っていてくれる遺跡を見つけなくてはならない。研究対象地域を設定し、フィールドワークを行い、探すのである。最初は表面調査。畑の表面に落ちていないか探す。地域の方々から事情聴取。石器をお持ちの方がいれば見せていただく。あやしい石器があれば、採集した場所を教えてください、探してみる。旧石器は地層の深いところにあるので、なかなか表面に出てこない。地層断面を少しだけ削って、探してみる。その繰り返しを行い、目指す石器があるであろう場所を特定し、そして試掘調査を行うことになる。しかしながら、目的の石器が出土するかどうかはわからないのだ。それが、推定通りに深い地層の中から顔を出したとき、自分の仮説が当たった、ここは旧石器遺跡なんだと喜ぶわけだ。だが、それは研究の始まりであり、ここから発掘への段取り開始。

地権者の許可取得、文化財保護法に基づいた発掘届、地元の文化財担当部局との調整がある。発掘機材を準備し、発掘を行う人材を集める。ボランティアで参加してくれる学生がいても、食事宿泊の面倒を見なくてはならない。実際お金がかかるのである。私たちが調査を継続している笹山原遺跡は旧石器を包含する地層は平安時代、縄文時代の下層で、地表下1m。発掘調査は上の層から順番に掘るので、終盤になってやっと石器が顔を出す。顔を出してくれれば、大喜び。だが、不幸にして出ないことだってある。ある種、バクチみたいなところがある。

発掘で石器が出土したとあって、それで終わるのではない。旧石器人の活動を明らかにするためには1点や2点の石器では不十分。この場所で行った人類活動のまとまりを掘り出さなくてはならない。そうすると、発掘調査は継続して行うことになる。何年もかかるのである。発掘が終われば考古学実習室での水洗いから始まる整理作業が待っている。平安時代、縄文時代の遺物もちゃんと整理する。毎年、概要の報告を行っている。並行して研究成果も出さなくてはならない。

最近は行政機関が調査した資料を用いて研究を行う方が多い。それも必要であることはわかるが、私は自分で調査した資料が基準資料であると考えている。発掘調査で得られる情報は限らない。それをどのように回収してくるのか。研究目的と資料収集の発掘調査はキャッチボールのようなものである。それに年代測定や石材産地定などの新しい分析技術が加わることで、未知の情報を得ることができるのである。それが考古学研究の醍醐味でもある。

こんな考古学のとなりで、民俗学の先生が「最近の民俗調査は山奥に行く必要はないんだよ。お年寄りがたくさんいる介護施設に行ってそこで話を聞けばいいんだ。」ですって。フィールドの新開拓はすごい。

考古学研究に安楽な老後はない。年々積み重なる資料が呻きだす。「早く報告書を書いて、論文にしろー。」と。考古学実習室には妖怪が住んでいるのかもしれない。でも、春になると笹山原遺跡が呼ぶのである。「掘りにおいて」と。

令和4年度第1学期 卒業証書・学位記授与式

令和4年9月24日(土)福島学習センター、9月25日(日)いわきサテライトスペースにて卒業証書・学位記授与式が行われ、卒業を迎えられた16名のうち7名の出席がありました。

学歌斉唱のあと、千葉所長から一人ひとりに卒業証書・学位記が手渡され、お祝いの式辞がありました。

続いて卒業生を代表して、福島学習センターでは福井雄さんが、いわきサテライトスペースでは松本勝成さんが「御礼のことば」を述べました。

ど卒業おめでとうございます



※延べ卒業生数 大学院57名 教養学部943名
(いわきサテライトスペース卒業生数含む)

令和4年度第2学期 入学者の集い

卒業証書・学位記授与式に引き続き、令和4年度第2学期入学者の集いとオリエンテーションが行われました。千葉所長の挨拶の後、オリエンテーションでは放送授業、面接授業、オンライン授業、施設の利用方法、客員教員ゼミや所長カフェ等の説明が行われ、新入生の皆さんは熱心に聞いておられました(写真はいわきサテライトスペースでの様子)。



御礼のことば

福島学習センター所属 福井 雄

先ずはこの度の学位授与式においてこの場を頂きましたこと有難く感謝いたします。

私の全科履修生への入学の動機ですが、その当時仕事内容が変わったので新たに知識を得ようとしたことが元になります。ただ独学では興味あるものに偏り限界を感じ、系統立ったものが必要だと思ったことで入学を思い立ちました。この系統立てた知識を得るという目的について受講していく中で期待通り、もしくは期待以上だったので入学して良かったと強く感じています。他にも学外の文献の取り寄せができたことも助かりました。

この四年間で個人的にも環境的にも色々な変化がありましたが一番は新型コロナウイルスの感染拡大による影響の大きさです。

これによって自分の学習への積極性の減退を感じたことや、特に面接授業の受講を控えざるを得なかったことは残念でなりません。

青少年時代でも同じだと今は感じていますが、社会人になってからの学びは一層自分から行動しないと身に付かないものだと思います。その行動を受け入れてくれる場所や教材があることへの気付きを得られたこと、また、これらを提供して頂いたことは非常に幸運でした。

放送大学が今後も様々な方々への学びの場であり続けることを願い、謝辞とさせていただきます。

令和4年9月24日

本日は、ご挨拶をさせていただく機会をいただき、ありがとうございます。

私が放送大学へ入学しようと思ったきっかけは、偶然BSでみかけたドイツ語Ⅰがきっかけでした。

ちょうど、今後のキャリアアップを考えており、仕事との両立などで不安な点もあったものの高卒の私にとって大学卒業という資格は、転職などでも有利になると考え、入学を決めました。

私が大学生活を振り返って、入学前と一番大きく変わったのが、この勉強の習慣が身に付いたことで、新しいことでも取り組んでみようと考えられるようになりました。

今年、私は以前とまったく違う業種の企業へ転職をしましたが、まったく違う職場環境でも、少しずつ分からないことを整理して取り組むことができたのは、新しい科目を履修した際、最初は分からないことだ

いわきサテライトスペース所属 松本 勝成
らけでも、少しずつ取り組めば理解できるということが学んだ成果であると感じています。

そのほかには、2年目以降では、新型コロナウイルスの流行によって面接授業が中止になってしまったことがありましたが、その際は、代わりにZoomを使ったオンラインでの面接授業を開設するなどの対応をしていただいたことで、授業を受けることができました。

様々な環境の変化のなかで、大学生活をサポートしていただいた職員の方々を始め、授業を行っていただいた講師の方々に感謝を申し上げます。

最後に本日出席いただいた入学生の皆様、ご入学おめでとうございます。皆様の大学生活が素晴らしいものになることを心よりお祈り申し上げます。

令和4年9月25日

公開講演会のお知らせ

日時／2023(令和5)年

2/4 土

開場12:30

開演13:00～14:30

会場／いわき産業創造館
(LATOV6階)

演題／再生可能エネルギーはみんなで作る
-ドイツの田舎のまわりかた-

講師／放送大学客員准教授
福島大学行政政策学類准教授
大黒 太郎 氏

日時／2023(令和5)年

2/5 日

開場12:30

開演13:00～14:30

会場／放送大学福島学習センター
講義室

演題／英語ジョークの言語学

講師／放送大学客員教授
福島大学経済経営学類教授
福富 靖之 氏

放送大学
公開講演会
入場無料

定員 各先着**35名(要予約)**
※各回とも定員になり次第終了します。お早めにお申込みください。

事前電話予約 **いわき** いわきサテライトスペース
開催地別に電話でお申込みください。

いわき いわき産業創造館 (LATOV6階)

令和5年 **2月4日(土)** 13:00～14:30(12:30開場)

**再生可能エネルギーはみんなで作る
-ドイツの田舎のまわりかた-**

講師 大黒 太郎 氏
放送大学客員准教授
福島大学行政政策学類准教授

日本の「田舎」は想像できても、ドイツの「田舎」のイメージができる方は多くはないでしょう。私たちが知らないうちに、ドイツではこの20年で大きな変化が起きている。農村地域の小さな自治体の多くで再生可能エネルギーが、地域の持続性に貢献するばかりでなく、脱原発政策を土台から支える力になっています。ドイツの小さな村を巡った福島大学生とともに、ドイツの田舎のまわり方と脱原発政策の源流をたどります。

郡山 放送大学福島学習センター講義室

令和5年 **2月5日(日)** 13:00～14:30(12:30開場)

英語ジョークの言語学

講師 福富 靖之 氏
放送大学客員教授
福島大学経済経営学類教授

いきなりですが、次のジョーク分かりますか？
What part of the car causes the most accident? / The nut that holds the wheel. この例の場合、nutとwheelが同音多義語であり、The nut that holds the wheelが2通りに解釈できるため、ジョークが成り立っています。この講義では、同音多義語のほかに、どのようなことばの特殊な仕組みが英語ジョークを成り立たせているのかを紹介します。英語ジョークを理解するために、何を身につけることが必要なのか、みなさんと一緒に考えてみたいと思います。

お申込み・お問い合わせ先
放送大学福島学習センター
〒963-8025
郡山市桑野1丁目22番21号
TEL.024-921-7471
<https://www.sc.ouj.ac.jp/center/fukushima/>

放送大学いわきサテライトスペース
〒970-8023
いわき市平田町2-1(東日本国際大学5号館5階)
TEL.0246-22-7318

主催：放送大学福島学習センター **後援**：福島県教育委員会・郡山市教育委員会・いわき市教育委員会

定員

各先着35名(要予約)

※各回とも定員になり次第終了します。
お早めにお申込みください。

事前電話予約

開催地別に電話でお申込みください。

- ・いわき いわきサテライトスペース
- ・郡山 福島学習センター

学生サークル紹介

会津学知会



「會津藩主松平家御廟」を巡る

会津学知会 塩谷 徳子

昨年10月に行いました、恒例(今迄15回目の実施を数える)である会津学知会「歴史散策」を報告します。新型コロナウイルス感染症対策として出されたまん延防止等重点措置が解除されて間もない10月17日(日曜日)、昨年同様に福島同窓会との共催、栃木同窓会協賛のかたちでの開催です。会津学知会の歴史散策も、福島同窓会と一緒に学ぶこと、6回目となります。

早朝からのどしゃ降りの雨。参加者はこの雨の中出発したのだろうか・・・昨日から前泊の参加者もあるので、「中止は無いな」と考えつつ、東山温泉入り口の集合場所である駐車場へ向かいました。屋根のある集会場に集まり、感染予防策を遵守して出席を確認、温度計は気温が低いので作動せず、非感染者であることを自己申告して確認を終えました。参加者は学知会会員と会員の知人を含む9名、福島・いわきより各1名、郡山より3名、栃木より3名の総勢17名です。講師は中野まさ子先生(若松市観光ボランティアガイド・学知会会員)です。

三代から七代の墳墓が並ぶ前で、南向きの墳墓の作りについて、または墳墓の各部所の作りについて、熱心に説明していただきました。時折小雨混じりの風が吹く中で、それにも負けない情熱的な語り口がとても印象的でした。この後、中の御庭や拝殿なども巡ってから、早朝からの雨で足元の悪いことの上、寒さも増したので、散策を早々に切り上げ、食事処へ向いました。

食事処では、各々隣り合ったメンバーと親しく語り、黙食を守りつつ親交を深め、13時30分を過ぎた頃、お腹も満たされ解散となりました。ようやく太陽も出て、天候が快方に向かうところで、お互い今日の労をねぎらい挨拶をして、それぞれの車で北へ西へと戻って行きました。参加された皆様、お疲れ様でした。改めてコロナの一日も早い収束を願う「歴史散策」でもありました。

会津学知会は、「歴史散策」「ミニ講演会」「学習報告会」を行い、会員の情報交換より学習向上と親睦を大いに図っている大変楽しい学生サークルです。学生・卒業生の皆さん是非ご参加ください。お待ちしております。

会津学知会ホームページ：<http://aizugakutikai.yaekumo.com>



昼食は大龍寺の近くにある「東山庵」。そばもカツどんもおいしい



撮影：福島同窓会会長 斎藤洋文